

2. 各特別勘定の運用状況

安定成長バランス型(CS)特別勘定 運用状況(2010年11月末現在)

運用方針

- 主に内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託に投資することによって、中長期的に安定した投資成果を目指します。
- 基本資産配分は、国内株式20%、海外株式20%、国内債券30%、海外債券30%とします。(2010年11月末現在)なお、基本資産配分については、安定性と収益性を勘案し、継続的に見直し、調整を行います。(※)
- 原則として、為替ヘッジは行いません。
- 運用にあたっては、運用スタイルの分散や運用会社の固有リスクの分散を図るため、基本的に当社が選定した複数の投資信託を組み合わせた運用を行います。なお、運用成果の向上を図るため、各特別勘定で投資する投資信託については、継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行っていきます。

資産内訳

	金額(千円)	構成比
投資信託	3,338,231	98.9%
現預金・その他	37,171	1.1%
合計	3,375,402	100.0%

運用状況

2010年11月のグローバル株式市場はMSCI KOKUSAI(現地通貨ベース)で0.95%下落しました。グローバル債券市場はCitigroup WGBI(現地通貨ベース)で1.44%下落しました。米国では堅調な経済指標や、月の中旬以降、追加の金融緩和観測が後退したこと等を背景に、またドイツでは堅調なIfo景況感指数等を受けて、米国、ドイツともに長期金利が上昇(価格は下落)しました。米国の株式市場は上旬、上昇基調にあったものの、その後はアイルランドを始めとする欧州周辺国の財政懸念や朝鮮半島を巡る緊張の高まりを受け、下落しました。一方、ドイツの株式市場では欧州周辺国の財政懸念が高まったものの、堅調な経済指標等を背景に上昇しました。このような市場環境の中、円安ドル高の進行もあり、当特別勘定は1.28%上昇しました。

運用にあたっては、基本資産配分に合わせて、当社が選定した投資信託を組入れています。具体的には、ラッセル社のマルチ・マネージャー型の投資信託を中心とした組合せとしています。

11月は資金移動に合わせて、「ラッセル日本株式ファンドI-3」、「ピムコ・海外債券ファンド」および「グローバル・ボンド・ファンドVA」の購入を行いました。

12月についても、これらのファンドへの投資を継続する方針ですが、ファンドへの投資配分・入れ替えについては適宜検討します。

ご注意

『当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を2/22ページに掲載していますので、必ずご参照ください』

■将来の投資成果を保証するものではありません

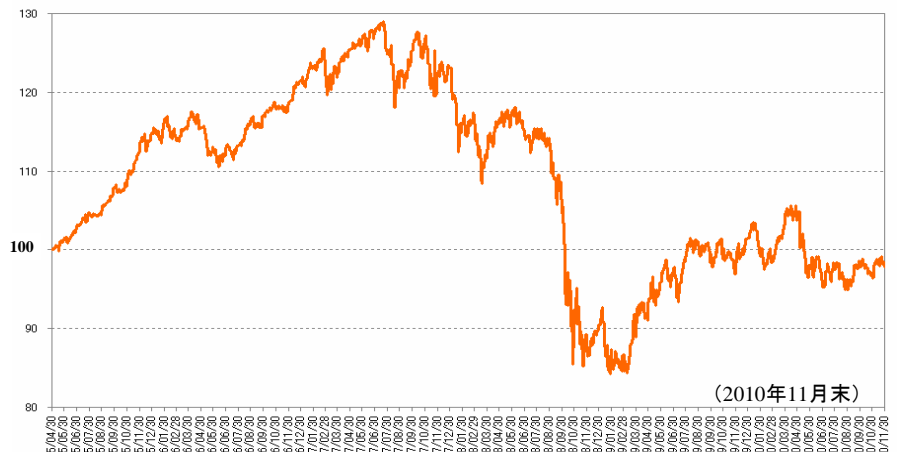
当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

ユニット・プライス騰落状況

ユニット・プライス	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定率
97.82319034	+1.28%	+3.04%	▲0.12%	+0.19%	▲20.02%	▲2.18%

(注)ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として数値化したものです。

ユニット・プライスの推移(運用開始日: 2005年5月1日)



ポートフォリオの状況

[基本資産配分]

株式 40%	国内株式 20%
	海外株式 20%
債券 60%	海外債券 30%
	国内債券 30%

[組入れ投資信託(投資比率)]

ラッセル日本株式ファンドI-3 (20.6%) : p11上段
ラッセル外国株式ファンドI-4B (0.5%) : p12下段
ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1 (20.5%) : p13上段
ピムコ・海外債券ファンド (7.8%) : p15下段
グローバル・ボンド・ファンドVA (31.6%) : p15上段
ラッセル日本債券ファンドI-1 (18.0%) : p16下段
現預金・その他 (1.1%)

(注)「p11上段」等と記載してあるのは、各投資信託の運用状況を記載しているページです。ご参照ください。

(※)基本資産配分の策定にあたっては、イボットソン・アソシエイツの協力のもと、各資産のさまざまな組合せについて比較分析(最適化計算)を行い、最適な資産配分(基本資産配分)を算出します。